

教員の研究を楽しく紹介

ふあんだ
すていく!

日本人による 日本人のための日本人の歴史?



国立台湾師範大学の建物。日本統治時代は台北高等学校でした。



授業には人文学部生3人がTAとして同行してくれました。自己紹介の様子。



周婉窈・濱島敦俊ほか訳『増補版 図説台湾の歴史』(平凡社、2013年)

高校にも大学にも、「日本史」という科目がありますね。高・大で学ぶ日本史の違いは何ですか?と聞かれたら、ひとまず私は、一次史料(当事者がほぼ同時代的に書いた史料)を自分で読みながら、何が起きていたのかを一生懸命考えるのが、大学で学ぶ日本近代史ですと答えています。

「日本史」は日本だけではなく、外国の大学でも教えられています。「日本史」という単独の科目が設けられていることもあれば、「アジア史」の範疇に入っていることもあります。私は昔、台湾大学留学中に日本近代史の授業を受講しましたが、日本で学んできた日本史と、台湾人が台湾人に対して教えている日本史は、やはり何かが違うのです。おそらく、日本史が「自国史」であるのか、「外国史」であるのかの違いに由来するのでしょうか。

1月に国立台湾師範大学で「近代日本と植民地」という1週間の集中講義を行ったのは、私にとってはその違いを乗り越えようとする挑戦でした。中国語の授業を準備するのは大変でしたが、学生は熱心に聞いてくれ、日本人として学んできた日本史を世界に発信する可能性を感じました。そして私自身、歴史を「誰に向かって語るのか」について、もっと広い視野を持つべきであることに気づきました。

ちなみに台湾の高校には、台湾史・中国史・世界史という3つの歴史科目があり、歴史教育をめぐる状況は複雑です。興味を持った方は、まずは左の写真にある、『台湾の歴史』を読んでみてください。



集中講義の風景。

人文社会科学部 講師 吉井 文美(日本近代史)